

令和2年度

宮崎県学校図書館教育研究大会

西都・児湯大会

『豊かな心と学びを育む学校図書館』

研究集録



古墳群：西都市

豊かな心と学びを育む学校図書館（西都・児湯大会）研究集録：目次

| | |
|---|----|
| A一①「魅力的な学校図書館づくり」 「人」「もの」「事」で魅力的な学校図書館を！ ～三股西小学校図書館運営の実際～三股町立三股西小学校：教諭 中原 智子 | 2 |
| A一②「魅力的な学校図書館づくり」 持続可能な図書室経営を目指して三股町立三股中学校：教諭 福永 悦子 | 4 |
| A一③「魅力的な学校図書館づくり」 「学習・情報センターとしての学校図書館の活用」 ～豊かな心と学びを育む学校図書館～串間市立大東小学校：教諭 木村 哲弥 | 6 |
| A一④「魅力的な学校図書館づくり」 県立高等学校におけるエリアコーディネーターと司書教諭の協働宮崎県立日南振徳高等学校：教諭 小坂 薫 | 8 |
| B一①「学習情報センターとしての学校図書館の活用」 国富町立八代中学校及び東諸県郡図書主任会の取り組み国富町立八代中学校：教諭 長友 智子 | 10 |
| C一①「学校における読書指導」 豊かな心と学びを育む学校図書館 ～学校における読書指導～加納中学校：教諭 川越由紀 | 12 |
| C一②「学校における読書指導」 豊かな心と学びを育む学校図書館 ～読書指導を効果的に取り入れた授業の在り方～宮崎市立大宮小学校：教諭 小野原 友美 学校司書 竜 口 玲佳 | 14 |
| D一①「豊かな心と学びを育む学校図書館」 特別支援教育における読書活動高千穂町立田原小学校：教諭 谷口 真琴・押方小学校：教諭 辻 明日香 | 16 |
| E一①「学校司書・司書教諭の役割」 本に興味・関心をもち、読書好きな児童の育成 ～図書主任及び読書活動推進委員、市立図書館との連携を通して～西都市立妻南小学校：教諭 山倉 久子 | 18 |
| E一②「学校司書・司書教諭の役割」 学校司書・司書教諭及び図書主任が担う豊かな心と学びを育む学校図書館を目指して ～効率的で計画的な図書館運営の実践を通して～門川町立門川中学校：教諭 新谷 昌子・講師 後藤真理子 | 20 |
| F一①「地域・家庭・公共図書館との連携」 進んで読書に親しむ児童を育成するための地域・家庭・公共図書館との連携の在り方高鍋町立高鍋東小学校教諭：樺木 栄子・木城町立木城小学校：教諭 日高 恵子 | 22 |
| F一②「地域・家庭・公共図書館との連携」 豊かな心と学びを育む学校教育～家庭・地域・学校・公立図書館との連携を生かして～えびの市立飯野中学校：教諭 上田 香代子 | 24 |

A 「魅力的な学校図書館づくり」

「人」「もの」「事」で魅力的な学校図書館を！
～三股西小学校図書館運営の実際～



三股町立三股西小学校 教諭 中原 智子

1 はじめに

本校は、三股町の西部、都城市に隣接する全校児童771人、学級数30の学校である。図書館運営には、学校図書館司書教諭である私（1年生学級担任）と、町雇用の図書館員（週2日来校）、委員会担当教諭2人（いずれも学級担任）の計4人が携わっている。15年前、県大会西諸大会において、同じテーマで発表した。それから研究を継続する中で、進化したこと、不変のもの、改めて思うことなどをまとめた今回の発表である。

2 主題設定の理由

「子どもの読書活動の推進に関する法律」に、「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動ができるように、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。」とある。学校図書館の充実、本校のみならず、児童の学習環境を整える上で最も重要視されなければならない場所だとも言える。「人」「もの」「事」を充実させれば魅力ある学校図書館となり、児童一人一人が読書への意欲を高め、生涯にわたる読書生活の基礎を養うことができるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

「人」「もの」「事」が創る学校図書館の在り方を探り、実践を進める中で、読書に親しむ児童を育成する。

4 研究の仮説

「人」「もの」「事」の充実を図れば、魅力ある学校図書館となり、児童一人一人が読書への意欲を高め、生涯にわたる読書生活の基礎を養うことができるであろう。

5 研究の実際

児童の読書への興味関心を持続させるためには、図書館へ行ってみたい、選んでみたいと思わせるものが絶えずあふれている図書館をつくるべきだと考える。図書館に起こる変化は、児童の興味関心を引きつけるはずである。「人」「もの」「事」の3つが相関したとき、一番魅力ある図書館となり、読書量が増えると考えます。

(1) 「人」が創る学校図書館

ア 学校図書館司書教諭

- 学校職員への図書館運営計画の発信と図書館利用指導、研修計画と実施
- ボランティアグループ（読み聞かせ、本の修繕）の活動計画と実施
- 学校図書館の配架、ディスプレイ計画と実施

イ 町雇用職員

- 蔵書点検とデータ管理
- 図書購入と受け入れ事務
- 本の修繕
- レファレンスサービス

ウ 図書委員

- 月ごとのおすすめ本のイーゼル展示とポップ作成
- 貸出返却業務と図書整理



(2) 「もの」が創る学校図書館

ア 蔵書

令和元年度、三股町一斉の図書館PCシステム変更に伴い、蔵書点検とラベル変更作業、廃棄処理を行った。書棚にゆとりが生まれ、分類番号との整合性が図られたことで蔵書が美しく収まることとなった。

イ 図書館マップ

全ての図書がもどり、整理された状態の春季休業中に、どの棚に、どんな内容の図書が配架されているかが分かる図書館マップを作成する。例年4月、全児童、職員に図書館マップを印刷配付し、図書館利用指導に使用し、分類番号別、テーマ別、作家別に配架された本校の図書館への理解を図る。

ウ 国語科関連図書の配架コーナー

令和2年度から国語の教科書が光村図書に変更になることで、昨年度の第3期購入を教科書関連図書に変更。新年度スタートに合わせて、配架準備した。

(3) 「事」が創る学校図書館

ア 「たんぽぽ放送」

給食時間の校内放送を使って、各学級の代表が図書館の蔵書の中から全校の児童に勧めたい本を紹介する。放送後、おすすめの本とともに紹介カードが図書館内に提示され、その後、カードを図書館横廊下に掲示し、周知を図るようにしている。

イ 「家読（うちどく）」

学期に2回「家庭の日」の第3日曜日に合わせて、家庭での読書を推奨する試みである。昨年度より、長期休業中にも実施。「家読便り」の通信と季節に応じた物語とともに読書記録カードを配付。回収後、家庭からのメッセージや児童の感想を図書館入口の掲示板に掲示することで意欲を高めている。

ウ イベント

「ブック集会」や「読書ビンゴ」などのイベントを図書委員の児童と企画し、実施。実施後、集会で紹介した本やカードを使ってディスプレイしたり、称賛カードを掲示したりすることで関心を高めている。

エ 読書通帳の一新

4月の貸出開始において、児童自身が読書目標を設定し、3月末にふり返る記録用紙を準備する。また、読書通帳に図書館で借りた書名一覧を添付、6年間の記録になるように令和2年度4月から従来の記録のみを一新して始める。

6 成果と課題

(1) 成果

- 「人」においては、委員会の児童の仕事を厳選したことで、自主的に仕事を進めながら個々のアイデアを生かした表現活動が見られる。「もの」ではラベル、枠など、視覚からも選書の助けになるような配架ができ、「図書館マップ」が生かせるようになった。「事」では、読書通帳に児童自身で読書冊数目標を掲げ、それに向けて読書に励むようになった。

(2) 課題

- 図書館に「人」が常駐していないことや児童が進んで課題追究できる「もの」としての図書資料が古く、必要数が確保できていないこと、「事」では、イベントを行うための準備や実施の時間が不足していることが課題として残った。

7 おわりに

宮崎県が「日本一の読書県」の実現する上で、「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3機能を十分に生かす学校図書館司書教諭を各校に専属配備する取組が必要だと感じる。

A 「魅力的な学校図書館づくり」

持続可能な図書室経営を目指して

三股町立三股中学校 教諭 福永 悦子

1 はじめに

本校は町内5つの小学校から生徒が集まる大規模校で、今後は小中9年間の貸出履歴の保存や、小中校の蔵書の共有化がなされる予定で図書システムの整備がなされている。

本校図書業務に関しては、来室者の増加、読書活動を推進すべくさまざまな取組を立案しているが、実現・持続化が困難となり、実際的な効果へ至っていない場合が多い。

2 主題設定の理由

図書業務担当職員が、他の業務を兼ねる中で、他校が行っている取組・実践を共有していくことが、負担の軽減と持続可能な図書室を運営していくことの両面につながるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

図書業務担当職員が他業務を兼任しながらも、生徒が読書活動に集中できる実用的な環境整備を行い、段階的に来室者数および貸出冊数が増加する図書室運営を目指せるための学校間共有を行う。

4 研究の仮説

生徒の実態や興味関心に基づいた環境整備改善や図書室運営など、地域の中で行われているさまざまな実践例を学校間で共有実践していけば、魅力的な図書室運営が可能になるであろう。

5 研究の実際

(1) 先行実践の学校間共有

ア 管内の小中学校にアンケートを実施し、図書室環境改善の方法をリスト化

都城三股地区管内小中学校に、図書室環境づくりの実践についてアンケートを行い、50校を超える回答の結果をリスト化し共有した。最も参考になったのは、取り組みやすく効果も高い実践である。下記がその実践リストの一例となる。こういった取り組みやすく効果が高そうな実践を研究者自らが勤務校で実践することで、さらに共有が活性化するような活動を行った。

【実践リストの例】

| 実践校 | 実践活動 |
|--------|------------------------------------|
| 五十市中学校 | 新刊やお勧めの本の紹介は表紙を見せて並べる。 |
| 菓子野小学校 | 来室した生徒に花びらのシールを渡し、購入予定図書の中から投票させる。 |

イ 読書活動推進指定校視察（都城市立五十市中学校）

アンケート結果から、読書活動推進指定校である五十市中学校の視察を行った。ここでは書架の適切な隙間や、棚の最上下段部はあえて書籍を並べないなど、来室者の心理に合わせた図書室環境が実現されていた。ここで学んだ利用者の視点に寄り添った実践を本校の図書室へフィードバックすることができた。

(2) 図書室環境の工夫

ア 読書機の個別化・スペースづくり

年度当初に生徒全体に図書室アンケートを実施した。結果として、図書室の環境、特に読書に集中できる環境が欲しいという要望が多かったため、閲覧する大型機の椅子を少なくし、距離をもたせた。さらに個別で読書に集中できる閲覧機を設置、書架の配置を変えるなどして、読書活動に集中しやすい配置にした。

イ 近現代文学コーナーや司書おススメコーナーなどの設置

アンケートの中で、図書室に来室しない理由として、「読みたい本がない」を挙げる生徒が散見された。新規購入ではなく、現在ある本の中から魅力を再発掘して展示することも有意義であると考え、国語の授業で扱う文学作品に類する作品を並べた「近現代文学コーナー」や「司書おススメコーナー」を新しく設置した。

(3) 図書室運営の工夫

ア 美術部との連携・文化図書委員会お勧めの本のPOPづくり

本校の美術部は部員が多く日々熱心に活動している。顧問の協力を得て、放課後に美術部員に来室してもらい、文化図書委員会と共にPOP作成に協力してもらった。70冊ほどの「司書と担当教諭が生徒に読んでほしい本」を大型机に並べ、そこから選んでもらい、本の紹介文とイラストを入れたPOPを作成してもらった。現在図書室に配置しているが、生徒はよくそれらの本を手取るようになった。

イ 利用学年の分散

図書室の混雑を避け、ゆっくりと本を選ぶ時間をもてるように年度当初、利用学年を分散した。結果、図書室開館初日とは思えないほどゆったりとした環境をつくることができた。生徒へ実施したアンケートの中で指摘されていた、貸出のためにカウンターに行列が出来る問題も解消された。

6 成果と課題

(1) 成果

- 各学校に実施したアンケートの回答内容をもとに実践集をリスト化し、自らも実践することで、実践を行うまでの立案や計画などの手間が激減した。
- 来室者の読書する環境の改善や、貸出業務をスムーズに行うための仕組み作りなど実践例をもとにすると実践までの経過が短縮された。
- 共有化を図ることで図書業務に慣れていない職員が担当になっても、魅力的な図書館づくりを運営し続けられる。

(2) 課題

- 今回行った先行実践の転用を、他校でも行うための分かりやすいガイドラインがあると、実践しやすい環境が地域全体で実現されたいと考えられる。
- 実践例を直接目にすることが、転用するハードルを下げることを実感した。上記の共有を土台として、先進的な実践を重ねている学校に情報を提供してもらったり、見学したりできる環境を整えることも大切だと考える。

7 おわりに

図書館業務を担当する職員が転勤や校務転換になった場合、新しく担当する職員は図書運営の方法を独自で考えることになる。学級経営や教科指導といった業務を兼任しながら、なお学校図書室を運営していくためにはどうするかという課題に対し、周囲の小中校の実践という知恵を活かすという結論に至った。今後は出来る限り多くの学校でシェアすることを目標として、今回の体験をもとに、周囲の先生方へ情報発信をしていきたいと考えている。また新しい取組は付け加えていきたい。

A 「魅力的な学校図書館づくり」

「学習・情報センターとしての学校図書館の活用」

～豊かな心と学びを育む学校図書館～

串間市立大東小学校 教諭 木村 哲弥

1 はじめに

南那珂地区は、宮崎県の南部に位置し、日南・串間の2市合わせて小中学校32校を有する地区である。南那珂地区の教科等研究会には図書館部会が組織されており、図書館教育に関する取組について各校の共通理解、共通実践が図られやすい。また、本地区には市立図書館が日南市に4館、串間市に1館あり、移動図書館を運営しているほか、日南市では読書活動担当者会が定期に開催されるなど、図書館教育を推進していく上で恵まれた環境にある。

今回は、日南市の小学校15校（小中学校3校を含む）と串間市の小学校10校の「学習・情報センターとしての学校図書館の活用」の在り方について、各校の実践を集約し、成果と課題をまとめることとした。

2 主題設定の理由

様々な情報が溢れ、情報収集のための手段も多岐にわたる現代において、情報活用能力の育成は急務となっている。そこで、これらの課題を解決していく方策の一つが、学校図書館の学習・情報センターとしての活用であると考え、本主題を設定したところである。このテーマの下で、本年度、読書活動担当者会を実施し、各小・中学校の学校図書館担当者が一堂に会し、読書推進に関する実践について研修を深めるとともに、各学校の読書活動の取組について情報を共有した。これらの活動を通して、学校図書館の児童の「学び」を支える学習・情報センターとしての役割の重要性を改めて再認識した。

3 研究目標

児童の「豊かな心と学び」を支える学習・情報センターとしての学校図書館の活用の在り方を探る。

4 研究の仮説

「学習・情報センターとしての学校図書館の活用」の在り方について、各校がそれぞれの実態に応じてさまざまな取組を行えば、児童の豊かな心を育む読書活動の充実が図られ、「学び」を支える学習・情報センターとしての学校図書館の活性化が促進されるであろう。

5 研究の実際

(1) 各教科及び総合的な学習の時間における学校図書館の活用

ア 調べ学習関連図書の配架の工夫

- 国語の教科書で紹介されている図書は、学年ごとの特設書架に並べるようにすることで利便性を高める。

イ 教科関連図書の並行読書

- 国語科及び学級活動における図書館利用指導と関連図書による並行読書を実施することで、学校図書館の積極的活用を図る。

ウ 学校図書館の利用指導

- 年度初めに図書館利用指導を全学級で実施した。図書主任と学校図書館司書で連携して日程調整を行うとともに、指導内容の精選を図った。

エ 学び方指導

- 昼休みのイベントとして「辞典引き選手権」を開催し、国語辞典や漢和辞典の使い方を楽しんで学べるようにした。このイベントをとおして、辞書や図鑑の活用術をアピールすることができた。

オ 教材研究及び学習資料作成のための活用

- 理科室に生物や観察に関する本を整備したり、調べ学習の手助けとなる本や図鑑を児童が手に取りやすい所に保管したりすることで、学習に活用しやすくした。

(2) 学校図書館の利用環境を高める工夫

ア 利用しやすい表示の工夫

- 図書館の机に「花」「スポーツ」「オリンピック」「偉人」などのコーナー表示を行ったり、図書館司書の協力を得て季節に合わせた関連図書の展示コーナー「季節歳時記」を設置したりしたことで、変化と新鮮さが感じられるようになった。

イ 学校図書館の利用効率と活性化を高める取組

- 図書バーコード管理ソフトを導入し、貸出・返却業務の効率化を推進した。
- 年度初めに購入図書を児童や職員に希望調査を行い、希望が多かった本を選定し、購入したことで図書館蔵書への興味関心を高めることができた。

ウ 図書委員会の企画等による取組

- 読書量を増やすためにビブリオバトルや読書ビンゴカード、職員による読み聞かせを実施した。

エ 図書館のレイアウトの工夫

- 図書館に広々とした学習スペースを設置した。2学級の同時利用が可能な広さを確保することで、可能な限り学級の利用希望に応えられるようにした。

オ タブレットによる電子書籍読書の導入

- 電子書籍を読むためのタブレットを購入し、児童がどこでも図書に親しめる環境を整備した。

カ 学校図書館司書との連携

- 図書主任を中心に、学校図書に関する職員のニーズ等に図書館司書と連携を図りながら応えていった。

6 成果と課題

(1) 成果

- 南那珂地区全体で「学び」を支える学習・情報センターとしての学校図書館の活用を意識しながら各校の実態に応じた工夫・改善を図る実践を行うことができた。
- どの学校においても学校図書館司書との連携が図られ、司書の役割や専門性をよりよく生かすことができた。

(2) 課題

- 各教科等との関連や図書館の利用指導、学習資料準備のための活用促進、図書館利用環境の整備といった取組は、各学校の実態に応じて活発に行われているが、学び方指導における学校図書館の活用は、まだ十分ではないと言える。

7 おわりに

新学習指導要領では、多くの情報を効率的に取捨選択し発信していく力がより求められている。その力をより高めていくためには、学校における児童の読書活動は不可欠であると考える。今後さらに研究を進めていき、学校単位だけではなく、南那珂地区全体の読書活動の推進に努めていきたい。

A 「魅力的な学校図書館づくり」

県立高等学校におけるエリアコーディネーターと司書教諭の協働

宮崎県立日南振徳高等学校 教諭 小坂 薫

※ 本研究は、前任校（宮崎南高校）での実践である。

1 はじめに

宮崎南高校は、宮崎県の中央部に位置し、全校生徒数1200人程度の大規模普通科高校である。図書館の位置は学校の敷地の南西1階である。

2 主題設定の理由

生徒の読書活動を充実するためには図書館を魅力的にし、積極的に足を運んでもらう図書館にする必要があると考えたからである。

3 研究目標

生徒の興味関心を引き、足を運びたくなる図書館づくりを行うことによって、貸出数の増加や授業での利用増加につなげていきたい。

4 研究の仮説

生徒の図書館利用が増えることにより、生徒が授業でも図書館を利用したくなり、結果的に図書館を使った授業が増えるのではないかと。

5 研究の実際

(1) 1年目（平成29年度）の取組

- ア 入り口の掲示板の活用
- イ 購入希望への返事及び季節・学校行事ごとの展示
- ウ 閲覧質周囲の整備
- エ 書庫の整理→単なる本の置き場になっているので、まずは古い本を廃棄する。
- オ 読書推進期間の充実（図書館飲食・図書館終礼）←図書委員を動かした。

(2) 1年目（平成29年度）の取組の成果

- ア P T A 広報誌『鵬』に本校図書館の紹介記事が載る。
- イ 貸出冊数の比較 H28と比べ1,712冊増加した。
- ウ 授業・終礼での使用が1年間で92時間になった。

(3) 1年目（平成29年度）の反省

- ア 図書館での授業・終礼への図書部の関わり
- イ 授業での本探しが難しい。
- ウ 朝の読書。→個人の本だけでなく、図書館の本も読ませたい。
- エ 本がすぐ探せる書庫にしたい。

(4) 反省を元に平成30年度の取組

- ア 図書館活用授業シート・図書館終礼シートを作成し、授業者（担任）が図書館にどう関わって欲しいのか（利用目的・支援希望など）を知る。
- イ 見出しサインを作る。（狭いところはまだ本が足りない。）
- ウ 朝読書の時間に英文・新書を読ませる取組（フロンティア科で実施）
- エ 書庫もNDCによる配置と目録変換の作業を進める。

(5) 取組の途中（4月1日～11月9日の時点で）

- ア 貸出冊数の比較

H29 5254冊→ H30 5959冊 705冊の増加

- イ 生徒の読む本の変化
文学の割合が減り、哲学、社会科学、自然科学、技術、産業、言語が増えた。
- ウ 授業・終礼での使用
92時間の利用となり、この時点で昨年度に並んだ。

(6) 授業支援事例

- ア 1年国語科 図書館オリエンテーション（アニメーション）
- イ 2年（フロンティア科 2クラス）総合科学Ⅱ
総合科学Ⅱについては、今年度から年度当初に図書主任・エリアコーディネーターの説明を入れ、積極的な図書館利用を促した。
昨年度は2時間の利用にとどまったが、今年度は現在13時間にまで増えた。
- ウ 1年家庭科 探究学習 ホームプロジェクト
家庭科については昨年度から取り組んでいる。
昨年度はマイラインを使って本を揃え、無い本は購入した。それで今年度の授業にスムーズに利用してもらうことができた。
- エ 1・2年普通科 探究学習 図南タイム（※図南＝総合的な学習の時間）
図南タイムでは新課程に備え、自分の興味あるテーマを選び、調べて発表するという探究活動に今年度から取り組んだ。図書部としても、情報提供・授業支援に力を入れた。授業だけでなく、昼休み時間の生徒の利用も多かった。
パソコンの台数には限度があるので、図書館の支援がありがたかったという声を多かった。

6 成果と課題

(1) 成果

- 貸出冊数や生徒の読む本が変化し、文学への偏りが減った。
- 授業での利用が非常に増えた。図書館へ足を運ぶ職員が増えた。

(2) 課題

- 全ての生徒の読書量が増えたわけではない。
- 図書館に関心をもたない職員も若干ではあるがまだいる。

7 おわりに

今回の研究を通して、改めてこれらの実践を行うには、教科・担任との連携が欠かせないと感じた。図書部での業務の分担や協働も大切である。図書館は学校の片隅にあり、こちらから声を出していかないと、なかなかその有用性に気づいてもらえない。しかし、一旦その便利さに気づいてもらえると、様々な面での利用が増えてくる。

これからも諦めずに声を届けていきたい。

B「学習情報センターとしての学校図書館の活用」

国富町立八代中学校及び東諸県郡図書主任会の取り組み

国富町立八代中学校 教諭 長友 智子

1 はじめに

東諸県郡は国富町・綾町からなり、小・中規模の小中学校9校で構成されている。本校は、国富町の北部に位置し、大坪地区の一本桜がよく知られている。全校生徒55人の小規模校でアットホームな雰囲気の学校であるが、生徒会主催のボランティア活動や委員会活動が活発であり、生徒一人一人の担う役割も大きい。また小規模校のため、施設面で充実を図ることが難しいという課題もある。

2 主題設定の理由

今日、PCやスマートフォン等から多岐にわたる情報が発信され、生徒は情報過多の状況におかれている。そのため総合的な学習の時間などで調べ学習を行うと、必要な情報を的確に探し出せず、得られた情報をそのまま書き写すだけということが多々ある。そこで必要に応じて、PCや書籍情報を的確に活用できるようになれば、学習情報センターとしての図書室の活用につながるのではないかと思い主題を設定した。

3 研究目標

図書室の調べ学習の環境を整備することで、図書室の活用を図り、生徒の書籍・パンフレット・新聞等の資料活用力を向上させる。

4 研究の仮説

- 資料の配架場所を明示すること
 - 多様な情報を提供し、資料活用の機会を作ること
 - 本を手にとりて読んでみたくなる工夫をすること
 - 図書室の利用機会を増やし、図書室利用のバリアフリー化を図ること
- 以上の取組を行えば、学習情報センターとしての図書室が機能していくのではないか。

5 研究の実際

(1) 資料の配架場所を明示すること

ア 図書室の本の精選と配置の工夫

図書室の資料の多くが色あせて表紙の文字が見えないなどの課題があった。また資料名だけでは、調べたいことにたどり着けなかったりすることも多かった。そこで各学年の総合的な学習の時間のテーマごとに、特設の書架を配置し、図書室のどこを見れば探せるか明示し、さらに関連する資料を明示した。またPCの利用に関する資料や国語辞典や和英辞典は授業中でもすぐに活用できるように多目的ホールの書架に配置し、必要な時にすぐに手に取れるようにした。

イ 資料の一覧表の作成と工夫

総合的な時間の学習での調べ学習をサポートできる資料の一覧表を作成した。一覧表はタイトルだけでなく、表紙をスキャンして可視化し、パネルサインとして活用した。

また一覧表は図書主任会を通じて共有化し、相互に貸し借りができるようにした。その他、小学校では、調べ学習で活用できる本を学年ごとの一覧表にまとめ郡内の全学校に一覧表を配付し、各学校の図書室に掲示した。

ウ 蔵書のPC検索

本校は今年度4月に図書室にPCが導入された。4月の臨時休業中に本の整備を進め、5月の学校再開から蔵書のPC検索やPCでの貸し出し管理ができるようになった。

- (2) 多様な情報を提供し、資料活用のお機ををつくること
- ア 国富町立図書館と連携し、修学旅行に関する資料(2年生)を借用し、本校の資料に加えて利用した。
 - イ 近隣の小中学校と連携し、家庭科での食育資料や幼児教育の資料を利用した。
 - ウ 漢字検定・英語検定・数学検定に関する資料(過去問題や問題集)コーナーを設置し、生徒が必要な時に利用できるように整備した。
 - エ 新聞コーナーの設置し、自由に読めるようするとともに、授業での活用を呼びかけた。(社会科・国語科の授業で活用) 現在修学旅行や郷土に関する記事のスクラップ作りも進行している。
- (3) 本を手にとつて読んでみたくなる工夫をすること
- ア 色あせや破損の見られる表紙カバーは外し、ブックカバーを再度掛けるなどの補修を行った。
 - イ 新刊の受入作業中の工夫として、作業が終わるまで、実物を職員室前の棚にディスプレイし、新刊の宣伝を行った。
 - ウ 新刊案内・おすすめ本などを紹介するPOP等を作成し、図書室に掲示した。また新刊コーナーなどを新たに設置した。
- (4) 図書室の利用機会を増やし、図書室のバリアフリー化を図ること
- ア 問題集や参考書のコーナーを設置し、自学学習で利用できるようにした。
 - イ 朝の読書活動の時間を充実させるために、朝の読書の開始前に図書室を利用できる時間を作り、本の貸し出しを行った。
 - ウ 委員会活動を通して、図書館祭りや新刊紹介、本の帯コンクール等のイベントを開催した。

6 成果と課題

- (1) 成果
- 調べ学習のコーナーを設置したことで、図書室の書籍等を利用する生徒が増えた。
 - 個々の課題に適した資料を提示したことで、生徒の作品内容が充実したものになった。
 - 図書に触れる機会を増やしたことで、以前より本の貸出冊数が増えた。漢字検定や英語検定の過去問題を借りたり、図書室で勉強したりする姿も見られるようになった。
- (2) 課題
- 新型コロナウイルス感染予防の休業で成果を測るデータが十分に取れなかったのので、今後も継続的な観察を続ける必要がある。
 - 図書室の管理・運営のための時間を確保する必要がある。

7 おわりに

今回の研究を通して、学習情報センターとしての図書室の機能を向上させることができた。コロナ感染予防の休業中、登校日ごとに生徒にたくさん本の貸し出しを行ったが、休業明けの生徒から、「本が好きになりました。」との声を聞くことができた。また本に関する質問や話題が多くなり、大変嬉しく感じている。

C 「学校における読書指導」

豊かな心と学びを育む学校図書館 ～ 学校における読書指導 ～

加納中学校 教諭 川越由紀

1 はじめに

本ブロックでは、宮崎支部の研究主題「豊かな心と学びを育む学校図書館～学校における読書指導～」のもと、各学校の実践を持ち寄り共有した。情報を共有し、現在取り組んでいるものにプラスアルファすることで、より良い図書館経営を目指してきた。

2 主題設定の理由

本ブロックでは、宮崎支部の研究主題に則り、日々小さな工夫を積み重ねることで、生徒の読書活動がより充実したものになると考えた。

3 研究目標

日々の小さな工夫を重ね、生徒の読書活動を充実させる。

4 研究仮説

それぞれの学校が行っている実践を共有することにより、各校がより豊かな図書館経営ができるであろう。

5 研究の実際

(1) 掲示物、設営の工夫

ア 読書アシスタントによる新刊掲示（高岡中他）

年度当初に新刊掲示を教員または読書活動アシスタントが作成し、後日それを利用して生徒が新刊掲示を作成する。

イ 通算読書量掲示（木花中）

学校全体での読書目標や達成度を明確にすることで、読書意欲を高める。

ウ テーマ展示（高岡中）

職場体験の時期に、職業の本（職業を説明する本だけではなく、小説などを含む）、古典学習の時期に、古典に関連する本をコーナー展示する。

エ 教師のおすすめ本展示（本郷中）

全職員に呼びかけて「おすすめ本」紹介を作成する。その中で図書館にない本は購入し、紹介するすべての本を図書館で貸し出せるようにした。

オ 本の福袋フェア（青島中）

何冊かまとめて袋に入れた「本の福袋」を準備。さらに福袋の中に感想シートを同封し、そのシートを提出すると抽選でプレゼントがもらえる二段構えのイベントを実施。

(2) 生徒による委員会活動等の工夫

ア 文化発表会における図書館紹介（加納中）

文化発表会のステージ発表でパワーポイントを作成し、図書館利用についての発表とブックトークを3年生が行なった。

イ 図書館祭り（各校）

時期を定めて、図書館祭りを実施した。内容としては、しおり作成、図書館クイズ、手作りパズル、スタンプラリー、もう一冊券プレゼントなど生徒主体で企画実施をしていた。

ウ ポスター、掲示物作成（各校）

図書館利用ルール啓発ポスター、おすすめ本紹介、季節にあった掲示物の作成などを教員ではなく生徒が委員会活動の一環として行った。

(3) 学校全体での取組

ア 読書記録帳（大塚中）

3年間持ち上がる一人一人の読書の記録を記している。多読賞やおすすめの本紹介にも活用している。

イ ブックリストと紹介カードの作成（生目台中）

「生目台中の100冊」を選定し、夏休みの課題読書としても利用した。

(4) その他

ア ALTによる読み聞かせ

イ 朝の読書週間の設定

ウ 学級文庫の設置

エ ブックトークの実施

オ 図書便りの発行

カ 生徒とともに選書会実施

6 成果と課題

(1) 成果

- 各校とも委員会活動などを通して、生徒が主体的に読書活動を推進することができている。
- 各校とも読書に興味のある生徒の読書意欲を高める効果はあった。

(2) 課題

- 利用者が固定化しがちである。読書意欲の低い生徒を引きつける読書活動についてさらに工夫が必要である。
- 魅力ある図書館となるよう読書活動アシスタントとの連携をさらに図っていく必要がある。

7 おわりに

今回の研究を通して、各校の実践事項を共有することができた。一つ一つは小さなアイデアではあるが、それを共有することで、自校だけではマンネリになりがちな図書館経営に新しい風を入れることができた。

C「学校における読書指導」

豊かな心と学びを育む学校図書館 ～ 読書指導を効果的に取り入れた授業の在り方 ～

宮崎市立大宮小学校 教諭 小野原 友美
学校司書 竜口 玲佳

1 はじめに

宮崎市学校教育研究会の学校図書館部会は、子どもの感性を磨き豊かな心を育む「読書センター」、自らの学びを磨き知識を広げる「学習・情報センター」としての学校図書館を学校教育の中心的な役割を担うものとして位置付け、そこに携わる人の意識と技量の向上を図っていきたいと考えている。そして、子どもたちの学習を支える学校図書館づくりを多角的に考えて、宮崎市の多くの学校で読書意欲を高め、読書活動の推進を図るための様々な取組を行い、図書館教育の充実を目指している。

2 主題設定の理由

本校は、「夢に向かって努力する 心身ともに健康で 人間性豊かな子どもの育成」を教育目標に掲げ、『夢の実現』をキーワードに自らの夢を叶えるために進んで学ぶ児童を育てようと、日々の教育活動に取り組んでいる。そして、学校経営の重点目標には、「子どもの確かな学力を支える教員個々の授業力アップ」が明記されている。そこで司書教諭として、読書指導を効果的に取り入れた授業のアイデアを構築したいと考えた。また、学習指導要領の改訂に伴って、教科等の横断的な指導を推進するための工夫として示された、合科的・関連的指導に着目して、図書館教育を教科等に関連させた授業に、読書指導をどう効果的に取り入れられるかについて研究したいと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

児童の豊かな心と学びを育む学校図書館にするために、どのような読書指導を効果的に取り入れた授業の在り方があるのかを明らかにする。

4 研究の仮説

読書指導を効果的に取り入れた授業を合科的・関連的指導で行うことで、児童の豊かな心と学びを育む学校図書館にすることができるであろう。

5 研究の実際

(1) 読書指導を行う前段階として、学校司書との連携による図書館教育運営の改善

- ア 図書館内の整備・運営の見直し
- イ オリエンテーションの充実
- ウ 図書委員会の活動の見直し

(2) 学校司書との連携による「読書感想文・感想画」の指導（読書指導）の工夫

- ア 国語科との合科的・関連的指導による読書感想文の指導の工夫
 - 学校司書との連携による読書感想文の事前指導と書き方指導
 - 「書くこと」の指導の工夫
- イ 図画工作科との合科的・関連的指導による読書感想画の指導の工夫

(3) 国語科と算数科の合科的・関連的指導に含まれる読書指導

- 第2学年の国語科『図書館たんけん』と算数科の『表とグラフ』の単元を取り上げ、合科的・関連的指導で授業を実践した。
 - 学校司書との連携による授業計画の工夫

- ・ 図書館オリエンテーションとのつながりを意識した授業の構築
- ・ 「表とグラフ」の便利さを授業後に学校司書のデータ整理の面から紹介
- ・ テーマを元に選書された図書の活用とそこに関連させた読書指導の工夫

(4) 宮崎市の他の小学校の読書指導に関わる授業の実践

- 年2回の図書館オリエンテーションの実施
- 各単元に関する図書の棚の設置
- 歯磨き指導での歯に関する本の読み聞かせ（学活との合科的・関連的指導）
- 調べ学習での図書館利用や単元で使用する図書を学年ごとに貸出
- 学校司書による授業支援
（調べ学習、単元に関わるブックトークやアニメーション）
- 教科書に載っている本のブックリストの作成・ビブリオバトルの実施

6 成果と課題

(1) 成果

- 「読書感想文・感想画」は、指導が充実すると、読書から得たものが効果的に表現され、児童の読書記録となるのでその指導の大切さを再認識した。
- 国語科と図画工作科との合科的・関連的指導を活用した「読書感想文・感想画」の授業展開は、ねらい達成のための指導や指導時間の確保に効果的である。
- 国語科と算数科の合科的・関連的指導での授業実践では、新しい授業の持ち方を提案でき、児童に身に付けたい知識・技能が効果的に指導することができた。また、その知識・技能を生かして、図書館利用ができたり、「データを整理して判断する」力の育成につながられたりした。
- 読書指導を充実させたり、授業に取り入れたりしていくためには、学校司書の存在が大きいことを改めて再認識した。また、学校司書の図書館のプロとしての技量と教育のプロとしての教師の技量の一つになると、児童にとって魅力的な教育活動ができると感じられた。

(2) 課題

- 読書指導を充実させるには学校司書との連携が大切で、その役割を担う図書主任（司書教諭）の働きかけの工夫が必要である。
- 合科的・関連的指導の授業の構築は、まだまだ認識不足な面が多く、さらに研究が必要である。

7 おわりに

今回の研究を通して、読書指導にはまだまだいろいろな方法があることや、今、求められる「主体的に学習に取り組む態度」の育成について深く考えるきっかけとなった。また、読書指導の推進は、日常的に取り組みやすい方法を考えたり、全職員が意識して取り組めたりできるようにすると、さらに充実し、児童の豊かな心と学びの育成につながるので、今後も学校司書との連携を大切に励んでいきたい。

D 「豊かな心と学びを育む学校図書館」

特別支援教育における読書活動

高千穂町立田原小学校 教諭 谷口 真琴
高千穂町立押方小学校 教諭 辻 明日香

1 はじめに

西臼杵支部（小学校13校、中学校5校、合計18校）では、教科部会の一つとして図書館教育部会が位置づけられている。本年度は、昨年度からの研究「特別支援教育における読書活動」（各校の支援学級の有無により、誰にとっても利用しやすい図書館と定義）を受け、昨年度の課題解決に向けて各学校が連携し、研究・実践を行ってきた。

2 主題設定の理由

西臼杵支部は、小規模の学校が多いために、図書館教育に十分な時間をかけられないことや環境整備の面での課題も多い。また、児童委員会の人数も少ないことから、図書館運営が厳しい実態がある。生涯にわたって読書に親しむ基盤を養うためには、「子どもの頃の読書習慣」を確立することが重要である。そのためには、何より読書の楽しさを味わわせ、本に興味をもたせ、主体的に読書をする態度を育てることが大切であると考える。小規模校での課題が多い中、小規模校のよさを生かした積極的な取組が求められる。そのためには、図書主任（図書館教育主任）だけでなく、全職員・地域の協力が不可欠である。

そこで、各学校との情報交換、取組の共有化等の連携を図りながら、読書への関心を高める工夫、地域等のネットワーク活用の工夫を行えば、児童の主体的・意欲的な読書活動につながると考え、この主題を設定した。

3 研究目標

特別な支援を要する児童及び読書に積極的ではない児童への読書指導・環境整備の工夫を通して、積極的に学校図書館を活用し、読書好きの児童を育てる。

4 研究の仮説

各学校・地域・保護者・図書館サポーターとの連携を図りながら、本への関心を高める工夫を行えば、児童が読書に親しみ、「豊かな心と学び」を育むことができるであろう。

5 研究の実際

(1) 学校内の環境整備

ア 表示の仕方や分類に工夫をし、低学年でも使いやすいように整理している。また、十進分類法だけでなく、教科書に出てくる本、新しい本、季節の本などは特設コーナーを設ける等、図書館のレイアウトも工夫している。さらに、季節に合わせた飾り等、文字ばかりではなくイラストを取り入れた掲示をし、足を運びたくなるような図書館を目指している。（図書館の整備）

イ 各学年、各教室において、児童に読んで欲しい本を掲示することで、本選びに迷う児童が選びやすいようにした。学校図書館だけでなく、各教室で本を手に取りやすい環境にすることで、児童への読書への意欲が高まった。（各教室の整備）

(2) 読書支援（読書量を増やす・読書の質を高める）の具体的な取組

ア 読書ビンゴカードの取組では、職員のおすすめの本を記入してもらい、読書祭り期間中に、選んだカードをクリアしていく取組である。児童自らが選択できるよう、「歴史・偉人・著名人」など様々なテーマのビンゴカードを作成している学校もあった。ビンゴカードの取組により、児童が昼休みに熱心に学校図書館へ足を運ぶ姿が見られるようになり、一人ひとりが目標をもちながら読書量を増やすことができ

た。(読書ビンゴカード)

イ 学級や他学年の児童に向けてのおすすめの本を葉書に書いて投稿できるよう、図書館に郵便ポストを設置した。郵便物が届くのを楽しみしている児童も多く、投稿期間は読書量が増えた。(郵便ポストの設置)

ウ 読書月間の取組の一つとして、図書館で宝探しを行った。本棚に宝(委員会作成プレミアム1冊プラス券)を隠し、それを昼休みに探すゲームを行った。各学年楽しそうに探す姿が見られ、後日、券を利用して来室する児童が増えた。(宝探し)

エ 特別な支援を要する児童の実態把握(学力・認識力)を行い、読書に親しみ、学びを得ることができる図書を選定し購入している。(支援学級担任との連携・選書)

(3) 保護者・地域・図書館サポーターとの連携

ア ほとんどの学校で、保護者や地域の方による読み聞かせを実施している。全児童が理解しやすい本の選定、また、絵本だけではなく「影絵」「音楽」「歌遊び」などを取り入れる等、児童が楽しめる読み聞かせを工夫している。

イ 小中学校併設校においては、併設校の特色を生かし、中学生から小学生、小学校高学年から低学年へ読み聞かせをしている。(ハイパー読み聞かせ)

ウ 秋の読書月間には、職員による読み聞かせを行っている。職員に事前に本を選んでもらい、児童が聞きたい本を選べるようにした。その際、児童の実態に応じた内容や特別支援教育に関係する本を中心に選定してもらうことで、児童がより興味・関心をもって楽しみながらお話を聞く姿が見られた。

エ 日之影町内の学校では、町の図書活動推進支援員の先生と連携し、月に数回来校していただき、様々な取組を行っている。支援員による読み聞かせや図書館の環境整備、また、全ての児童にも本探しがスムーズにできるようにアドバイスをいただきながら、図書館サポーターと連携して読書活動の充実を図っている。

オ 定期的に町内の図書館や県立図書館から貸し出しを行っている。幅広い種類の本や幅広い学年に対応することができ、貸し出し当初から多くの児童が利用している。

6 成果と課題

(1) 成果

- 各学校と情報交換や共有化を図ることで、各校の今後の実践の参考になった。
- 地域や図書館サポーター等との連携により、学校図書館がさらに充実してきた。
- 各学校の工夫ある取組により、特別な支援を要する児童を含め、多くの児童が学校図書館に足を運ぶ姿が見られるようになり、児童の読書への関心が高まりつつある。

(2) 課題

- 個別に見ると、本をあまり借りない児童もおり、利用者が固定しつつある。個に応じた支援や読書活動の在り方について、今後もさらに考えていく必要がある。
- 各学校や地域等のネットワークとさらに連携し、研究を深めていきたい。

7 おわりに

各学校の実践報告会の中で、「誰にでも優しい図書館が特別支援教育における図書館整備につながる」という考えのもと、様々な取組が行われていることが分かった。これからも、図書館部会が中心となり、各学校と連携し魅力的な学校図書館の実現を目指したい。

E 「学校司書・司書教諭の役割」

本に興味・関心をもち、読書好きな児童の育成

～図書主任及び読書活動推進委員、市立図書館との連携を通して～

西都市立妻南小学校 教諭 山倉 久子

1 はじめに

西都市は、中規模校や小規模校で成り立っている。そのため、全ての学校に司書教諭は配置されていない。また、学校司書もない。読書活動推進委員が、学校の規模により、週に2～4回（時間勤務で）配置されている。市立図書館は、令和元年度より図書のシステムを変えたことで、今までより学校とも近い存在になった。

2 主題設定の理由

どの学校も、図書主任・読書活動推進委員・市立図書館との連携を通して、図書館の整備、読書活動の推進を図っているが、各学校の実態や取組の実施の把握が十分でない。

そこで、図書主任及び読書活動推進委員、市立図書館との連携を図りながら、本への興味・関心を高める工夫、読書量や読書の質を高める読書活動の工夫を行えば、本に興味・関心をもち、読書好きな児童を育てることができるであろうと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

図書主任・読書活動推進委員及び市立図書館との連携を通して、本に興味・関心をもち、読書好きな児童を育てる。

4 研究の仮説

図書主任及び読書活動推進委員、市立図書館との連携を図りながら、本への興味・関心を高める工夫、読書量や読書の質を高める読書活動の工夫を行えば、本に興味・関心をもち、読書好きな児童を育てることができるだろう。

5 研究の実際

(1) 児童の実態把握

児童の読書に意識を把握するため、アンケートを令和元年12月に実施した。調査項目は、「読書は好きですか。」「図書室によく行きますか。」「市立図書館によく行きますか。」とした。次回は、令和2年の12月に実態調査を計画している。

(2) 図書主任としての役割

ア 本への興味・関心を高める工夫

○ 読み聞かせ

保護者やボランティア、学担や異学年での児童、専門家（木城えほんの郷の方）で行われている。定期的に朝の時間や昼休みなどに行った。

○ 本の紹介や本の選定

紹介ができるコーナーを作ったり、時間を設定したりすることで、新しい本に出会わせる。また、選定時に、人気のある本などを調査し、購入する。

○ 図書まつり

読書月間や週間を設定し、クイズ、スタンプラリー、ファミリー読書などを行っている。

イ 読書量や読書の質を高める工夫

○ 学級文庫の設置や貸し出し冊数の変更

学級に図書を置くことで、本に親しませる。また、週末や長期休業前に、貸し

出し冊数の上限を変えて、休日の読書量を増やす。

- 1年間の貸し出し目標冊数の設定や多読賞の表彰
全校で目標冊数を決め、その達成状況を全校集会や校内放送で知らせる。また、個人でも学期ごとの目標冊数を決める。学期末に学年や学級で表彰する。
- 個人読書傾向表の配付や本の紹介
個人読書傾向表は学期末に作成し、担任が一人一人の読書傾向を把握し、児童への指導につなげる。また、おすすめの本をPOPや作文で紹介しあう。

(3) 西都市読書活動推進委員との連携

ア 本への興味・関心を高める工夫

- 図書館の環境整備や図書だよりの発行
学校行事や季節などを意識した図書コーナーの設置や掲示物の掲示をした。また図書室に届いた新刊図書の紹介や学校図書目標の啓発をした。

イ 読書量や読書の質を高める工夫

- 100冊チャレンジや□年生おすすめの本ビンゴ
一人年間100冊を読書することを目指す100冊チャレンジや、読書の質を高めることを目指すビンゴカードを準備した。
- 市立図書館からの本の借り入れ
授業で必要な本が自校図書室にない場合、読書活動推進委員が学担の代わりに市立図書館へ連絡し、その図書を届けてもらった。

(4) 市立図書館との連携

ア 本への興味・関心を高める工夫

- 図書館だより
市立図書館のイベントのお知らせやお勧めの本の紹介などで、毎月刊行されている。

イ 読書量や読書の質を高める工夫

- 読書通帳や図書貸出サービスの活用
通帳に読書した本の題名が記帳されている。図書貸出サービスは、小中学校それぞれ2か月に1回、図書館の司書の方々が選書された本を入れ替えている。

6 成果と課題

(1) 成果

- それぞれの学校が工夫をして様々な取組をし、効果を上げていることが分かった。

(2) 課題

- 西都市内のどの学校にも共通して取り組むことを決め実践することで、より一層の学校同士の横のつながりをつくり、本好きな児童を育てる必要がある。

7 おわりに

今回の研究を通して、児童に本を読ませるようにそれぞれの立場の方が努力されていることが分かった。今後も、読書好きな児童が育つよう、工夫を積み重ねていきたい。

E 「学校司書・司書教諭の役割」

学校司書・司書教諭及び図書主任が担う豊かな心と学びを育む学校図書館を目指して
～効率的で計画的な図書館運営の実践を通して～

門川町立門川中学校 教諭 新谷 昌子
講師 後藤真理子

1 はじめに

本支部は、所属学校の地域が広範囲に渡っており、支部会を開催する際には遠方から集まる必要がある。このような現状から、研究会は読書感想画・感想文コンクールの審査と併せて年に1回の開催にとどまっている。また、所属学校のほとんどが小規模校であるため、在籍する職員が少ない上、担当教諭の授業時数の減免や学校司書・図書支援員等の配置がない学校が多く、図書館運営が十分機能しているとは言い難い現状がある。

本校は県北南東部に位置し、本支部唯一の中規模校（学級数17・特別支援学級3を含む）であり、図書支援員の配置校である。中央を幹線道路が走り、交通の便がよい。また、山や海・川など自然にも大変恵まれた場所に位置している。近年徐々に読書に対する意識や読書量は増加傾向にあるものの、県の平均読書冊数には届かない状況である。

2 主題設定の理由

生徒の読書活動を充実していくためには蔵書や使用方法など図書館のことを周知する必要がある。担当職員だけでなく、学校全体に呼びかけ、教科や特別活動などで活用できるような資料を提供し、情報発信をすることで、おのずと開かれた図書館となる。また、本校としては支部全体で話し合う機会が少ない中、唯一の図書支援員配置校として、何ができるか可能性を追究し、今後の支部の活動が活発化するきっかけとなることや、各学校への図書支援員配置への推進につながればと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

- 支部会での協議の在り方を検討し、各校の図書館運営に役立てる。
- 図書館活用年間計画や情報発信を通して、学習の場・開かれた図書館運営につなげる。

4 研究の仮説

支部会の協議で出された図書館運営の実態を把握し、課題解決に向けて、支部全体で協力することは、大変意義深いと考える。学校図書館を児童生徒や職員により一層活用してもらえるように図書館側から情報を発信し、活用を促せば、児童生徒や職員が図書館を利用する機会が多くなり、学習の場として、また、開かれた図書館として魅力的な図書館運営につながるだろう。

5 研究の実際

(1) 支部会における協議の在り方

支部会では、毎年6つの柱に沿って協議を行ってきたが、昨年度より4つの柱にしぼって、図書館教育担当者として何ができるのかを焦点に協議を行った。

ア 公立図書館との連携

- 調べ学習（職業・地域について）等の本の選定、借用などを、図書支援員を通して町立及び県立図書館に依頼した。
- 外国籍の生徒の要望（英語の原書）の本を図書支援員と協力して、近隣の公立図書館より借りた。

イ 家庭読書推進の取組

- 「家庭読書の日」や「親子読書の日」を設け、ノーメディアデーなどとタイアップして保護者と連携を図り、読書活動を推進した。

- P T A活動や社会教育活動の一環として保護者への呼びかけを行った。
- ウ 委員会・係活動の運営
 - 図書委員会が中心となり、学期に1回「読書集会」を実施した。
 - 学級文庫の選書・設置・管理、給食休憩の貸出業務を活動の一環として行った。
 - 生徒による読み聞かせ、本の紹介ポスター作成や校内放送での案内を行った。
- エ 図書館運営
 - 購入図書（蔵書）の偏りがいないか、図書支援員と協力してチェックを行った。
 - 行事や季節による関連図書の設置やレイアウトを施した。
 - 図書支援員と協力して、図書の廃棄を長期休業中に実施した。

(2) 学習の場・開かれた図書館運営

ア 図書館活用年間計画の作成

- 職員にアンケートを行い、実態を把握した。
- 教科ごとにどのような図書を求めているかを把握した。
- 図書館にどのような本があるかを周知した。
- 各教科の取り扱う単元を記した年間指導計画を準備し、単元ごとに関連の深い図書を写真付きで紹介した。

イ 選書の方法

- 選書会やアンケート、リクエストなどに児童生徒、職員も参加した。
- 図書館活用年間計画を利用し、各教科の先生方が学習に必要な選書を行った。

6 成果と課題

(1) 成果

図書館活用年間計画を作成することにあたって、先生方と一緒にどうしたら活用しやすい学校図書館になるのかについて考える良い機会となった。また、各教科や日々の読書及び学習活動に生きる選書を行うこともできた。本校においては学校支援員の協力のもと、更に専門的な知識の選書や設営など充実した図書館運営をすることができた。図書主任だけではなく、学校全体として取り組めたことが最大の成果であった。

(2) 課題

本支部には学校司書・読書アシスタント等の配置のない学校が多く、図書館運営上、できることに限界がある。故にボランティアも含めて図書館運営に協力してくださる人員の増加や支部会での図書館教育担当者間の連携が急務である。また、支部会における効果的な協議の在り方についても今後、更に検討していきたい。

7 おわりに

今回の研究を通して、年に1回しか開催されない支部会の中で、1つの課題解決に向けて協力して取り組めたことが大変意義深いと考える。今後、代表して実践された図書館年間計画の作成や学校図書司書との連携、委員会活動の実践などを共有し、支部全体に広めていくことを期待する。また、各学校での課題に対して、各校の図書主任が協力し合い、取り組んでいけるような支部会の在り方、体制を模索していきたいと考える。

F 「地域・家庭・公共図書館との連携」

進んで読書に親しむ児童を育成するための地域・家庭・公共図書館との連携の在り方
高鍋町立高鍋東小学校 教諭 樺木 栄子
木城町立 木城小学校 教諭 日高 恵子

1 はじめに

高鍋東小学校（児童数652名）、木城小学校（児童数326名）は、宮崎県のほぼ中央に位置している。両校においては、図書館に学校司書が配置され、司書教諭とともに読書指導を推進している。また、東児湯図書館教育研究会においても、各学年における「おすすめの本」を選定するなど、児童が様々な本に親しめるように取り組んでいる。

2 主題設定の理由

第四次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」に、「子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」とあるように、児童の成長において、読書は重要な役割を果たす。児童に読書習慣を培うためには、読書に親しむ機会を増やし、読書の楽しさを実感させることが大切である。そのためには、学校における読書活動を充実させるだけでなく、地域や保護者、公共図書館と連携して、読書に親しむ機会を増やし、読書活動を推進していくことが必要だと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

児童に読書習慣の形成を図るための、地域・家庭・公共図書館と連携した取組の在り方を、具体的な実践を通して究明する。

4 研究の仮説

地域・家庭・公共図書館と連携して読書活動を推進していけば、読書の楽しさを知り、進んで読書に親しむ児童を育てることができるであろう。

5 研究の実際

(1) 高鍋東小学校の取組

ア 地域・保護者ボランティアとの連携

○ 読み聞かせグループ「おはなしころりん」の活動

- ・ 1年生歓迎お話を1年生の入学を祝って4月に実施する。
- ・ 読み聞かせは朝、給食の時間の放送、昼休みに実施する。
- ・ 読書祭りは2学期に学年ごとに実施する。

○ 図書館整備ボランティアの活動

- ・ 毎年5月に保護者や地域の方々から募集する。
- ・ 毎月第1・3水曜日の13:50～14:35に活動する。
- ・ 活動内容としては学校図書館の本の整理や掲示物の作成などを行う。

イ 家庭との連携

○ 家庭読書週間

- ・ 親子で同じ本を読んだり、読み聞かせをしたりして、本に親しむ時間をもつ。
- ・ 自分が読んだ本について「読書カード」に書き、友達と交流する。

○ 図書館便りの発行

- ・ 家庭読書週間への協力を呼びかけたり、学校での図書館教育の取組や地域・保護者ボランティアの活動の紹介をしたりする。

ウ 町立図書館との連携

○ 町の読書感想文・感想画コンクールの実施

- ・ 入選作品は、文集に掲載される。町の「子ども読書まつり」でも紹介される。
- 学校司書と町図書館職員との情報交換会の実施

(2) 木城小学校の取組

ア 地域との連携

- 読み聞かせ
 - ・ 「木城えほんの郷」のボランティアによる年3回のお話会の実施
 - ・ 第2月曜日の朝自習時間に、おはなしのポケットさんによる読み聞かせの実施
- アーサー・ビナード交流授業
- 学級懇談
 - ・ 「木城えほんの郷」による保護者向けの講話

イ 家庭との連携

- ファミリー読書
 - ・ 1、2学期に1週間設定 感想を「読書の木」に掲示
- 読書だよりの発行

ウ 公共図書館との連携

- 授業に活用する本の収集
 - ・ 各学年からの依頼を受けた学校司書による本の収集
- 町図書館の使い方についてのオリエンテーション
 - ・ 1・4年生における町図書館の使い方などの学習
- 配架や図書選定に関する提案・助言
 - ・ 「木城えほんの郷」からの職員への配架についてアドバイス
- 町図書館での展示
 - ・ 授業で作った児童の作品の展示
 - ・ ファミリー読書週間、家族向けの本の展示

6 成果と課題

(1) 成果

- 家庭での読書を推進することや、保護者・地域ボランティアの方々による読み聞かせ、読書に関する行事を行うことで、児童の読書への興味が高まり、様々な本に進んで親しむ児童が増えた。
- 公共図書館と連携し、児童の読書に関する作品の紹介をしたり、家族の読書活動を推進するような環境整備をしたりすることで、読書の習慣づくりにつながった。

(2) 課題

- 児童一人一人の読書量や、読書週間の家庭での取組に個人差が見られるので、今後もさらに地域や家庭、公共図書館と連携して、読書に親しませる工夫をしていく必要がある。

7 おわりに

今回の研究を通して、地域や家庭、公共図書館と連携することは、児童に読書習慣を形成する上で効果があると改めて感じた。これまでの取組を生かしながら、今後も工夫を重ね、進んで読書に親しむ児童を育てていきたい。

F 「地域・家庭・公共図書館との連携」

豊かな心と学びを育む学校教育 ～家庭・地域・学校・公立図書館との連携を生かして～

えびの市立飯野中学校 教諭 上田 香代子

1 はじめに

本校（生徒数193名）は、近隣に飯野小学校、飯野高等学校があり、長年小中高連携による教育活動の推進に取り組んでいる。学校図書館の運営は、学校司書や協力員などの配置は無く、主に図書主任の教諭1名と各学級の図書委員会の生徒8名で行っている。また、えびの市民図書館は車で約10分の距離にある。

2 主題設定の理由

宮崎県が「日本一の読書県」を目指しているように、読書活動は豊かな心の育成や学力の向上（学びの質の向上）に大変重要な役割を担っている。そこで、「地域連携」の視点から読書活動の取組を改善していけば、生徒の読書に対する意識を一層高め、豊かな心の育成や学力の向上（学びの質の向上）を図ることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

家庭・地域・学校・公共図書館との連携の在り方を改善することによって、学校や家庭における読書活動を一層充実させる。

4 研究の仮説

家庭・地域・学校・公共図書館との連携を生かして学校図書館の運営を改善していけば、学校や家庭における読書活動が一層充実し、生徒の豊かな心の育成や学力の向上（学びの質の向上）を図ることができるだろう。

5 研究の実際

(1) 家庭との連携

ア 「家読の日」の実施

先に述べた飯野地区3校での共通実践として、共通したワークシートを使い、「家読の日」を実施した。親子で同じ本を読んで感想を交換するコース、それぞれ別の本を読むコース、小学生以下の弟や妹、親戚の子どもたちに読み聞かせをして感想を言ってもらうコースなどを設定した。保護者の感想を見ると、「久しぶりに親子で読書をするいい機会になった。」など、肯定的な感想が多かった。

イ 保護者アンケートを活用した本の紹介

保護者へ「中学生に読んでほしい本」に関するアンケートを実施した。集約した結果を図書室に掲示し、読書に対する意識を高めるようにした。

(2) 地域との連携

ア 「木の実の会」による読み聞かせの実施

えびの市を中心に活動されている「木の実の会」の方々に、年に8回、1、2年生を対象に朝自習の時間に読み聞かせをしていただいている。毎回学級で2冊ほど読んでいただいている。（3年生は卒業式前の時期に実施）

イ えびの市子ども読書活動推進委員会における情報交換

えびの市子ども読書活動推進委員会が年に3回開催されている。その中で、読書に関する課題や活動内容などについて情報交換を行っている。

(3) 学校との連携

ア 飯野地区での連携

飯野地区では、飯野小・中・高等学校で「小中高合同ミーティング」を年に数回開催し、その中で読書に関する課題や活動内容などについて情報共有をしている。

昨年度は、共通実践活動として、図書委員が中心となり、「お勧めの本交換会」を実施した。児童生徒は、各学校の図書館にある本からお勧めの本を選び、POPを作成した。職員が各学校に届け、届けた本は1か月ほど学校図書館に展示した。展示された本を読んだ児童生徒からの感想カードを添えて返却し、交流に繋げた。

イ 市内中学校との連携

えびの市内の中学校4校で、読書に関するアンケートを実施し、結果をまとめた。各中学校の読書に関する実態を把握するとともに、他校の良い取組を自校の取組改善に役立てるようにした。また、4校でビブリオバトルを共通実践することにしたが、残念ながら、コロナウイルスによる休校のため、事後報告会ができなかった。

(4) 公共図書館との連携

ア えびの市民図書館からの配本

えびの市の全ての小中学校は、えびの市民図書館から年に6回、各学級に30冊ずつ本を借り入れている。市民図書館が定期的に配本・回収を行っており、各学級に常に新しい本があることで、読書に親しむ良い機会になっている。

イ 授業に活用する本の収集

各学年で調べ学習などを行う際に学校図書館の本だけでは不十分な場合、市民図書館からの団体貸し出しで本の収集をしている。例えば、「えびの市の歴史」など、調べたい内容を伝え、市民図書館の司書の方がその学習に関する本を選定してくださるので、すぐに授業に活用でき、生徒の学びの質を高めることができる。

ウ 読書感想文・感想画コンクールへの応募

えびの市民図書館では、子どもの読書活動推進のため、読書感想文・感想画コンクールを実施している。本校からも毎年応募し、多くの賞をいただいている。

6 成果と課題

(1) 成果

読書に関するアンケートでは、読書が「好き」または「まあまあ好き」と答えた割合が、12月では76%であったが、今年度5月では、全体の83%を占める結果となった。また、読書の大切さを肯定的に捉えている生徒も、92%から96%と増えていることが分かった。1か月あたりの読書量では、平均4.2冊から3.7冊と減少したが、不読者数は20人から16人とわずかに減らすことができた。臨時休業期間中の読書量については、約4割の生徒の読書量が増え、その内8割の生徒が、読書に対する関心が以前より高まったと回答している。図書室を利用する生徒の人数は、1日約30人から60人と倍に増え、読書への関心の高さを感じている。

(2) 課題

図書室利用者や、読書に対する興味関心は高められたが、それを「読書の質」や「学びの質」の向上にどう繋げていくのか、継続的に取り組む必要がある。

7 おわりに

今回の研究を通して、学校の読書推進の取組を充実させることの大切さを再確認するとともに、家庭・地域・学校・公共図書館と連携していくことが生徒の読書意欲を高めることに非常に有効であると感じることができた。特に、臨時休業中の読書量が増え、生徒の読書への関心も高まったことから、「家読の日」に関する取組をはじめ、家庭生活での読書啓発の取組は、読書推進に効果的であると考えられる。



ほおずき小灯：西米良村